

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会】

1. 対象 6年生

言われたことには取り組もうとする子が多い。仲の良い子とは積極的に話し合う姿が見られる。学習習慣が身に付いている子とそうでない子に差があり、学力差が大きい。そのため、資料の読み取りにも差がある。自分から進んで学んだり考えたりする力が弱い。社会科に苦手意識を持っている子が多い。数人の友達間では話し合いができるが、自信がもてないため全体の場で堂々と発言し、考えを広めることができる子が少ない。

2. 単元名「明治の国づくりを進めた人々」(全7時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料でしらべ、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。
思考力, 判断力, 表現力等	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え表現している。 ②黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合してみたりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。
学びに向かう力, 人間性等	①黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

4. 本時の目標

外国と日本との差に着目して、新しい政府に必要な政策について考えることを通して予想を立て、今後の学習に対する見通しをもつ。【主】(2)ア(ケ)

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

なぜ、明治維新は起こったのだろうか。

考えるための材料

江戸時代末期の日本と欧米の様子の絵図を比較できるように提示する。
(船の大きさ、郵便制度、移動手段、学校の様子、政治の仕方、憲法など)

想定される活動

教科書や資料集をそのまま読み取らせてしまうと、情報が多すぎて混乱してしまう子が出ることが予想される。そのため、必要な資料のみをあらかじめ抜き出しておくなど、独自の資料を用意することが必要である。また、各資料について全体で確認しながら比較したり、読み取ったりすることで、当時の日本が外国と比べ発展が遅れていたことに気付くことができると考える。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

- ・明治維新が起こった理由について、日本と欧米の違いを読み取ることができる資料を提示して話し合う。
- ・話し合いでは、グループで行う。その際、話し合いの型を示し、スムーズに行うことができるようにする。
- ・各資料を丁寧に読み取り話し合うことで、軍事力、生活、政治、憲法という4つキーワードを引き出せるようにする。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

- ・明治初期の日本は欧米と比べて、軍事力、生活、政治、憲法などにおいて遅れていたことに気付く。
- ・日本は欧米に追いつく必要があることが分かる。